



R7. 1 キャリア教育課だよりNo.10 文責：柳澤

事業所の声と小学部から指導できること～低学年での取り組み～

小学部のお子様をもつ保護者の皆さんは、「職場実習」「進路決定」という言葉はまだ先の話だと思いませんか。確かに、進路決定は高3になりますが、小・中・高12年間の学校生活（キャリア教育）を積み重ねていくことで、希望する進路先への路がひらけてきます。

そこで、今号では事業所から実際にいただく声～働く上で大切なこと～をもとに、12年間の「入口」学年である低学年での「キャリア教育」の取り組みの一部をお伝えします。

事業所からいただく声としてよく挙げられるのが、「休まず事業所に通うことができるとよい」、「自分でできることを一つでも増やしてきてほしい」、「準備や片付けなどを自分でできるとよい」、「トイレを綺麗に使ってほしい」、「清潔感を持ってほしい」など基本的生活習慣に関わるものがとても多いです。また、「気持ちのよい挨拶」、「事業所のルールを守る」、「仕事に意欲がある」なども大切だという声をよく耳にします。

本校小学部低学年では、特に以下の三つを重点的に指導しています。

- ①挨拶（「おはよう」「さようなら」「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」など）
- ②基本的生活習慣（衣服の着脱、排泄、清潔、食事、身の回りの整理など）
「自分のことは自分でやる」を意識し、自分からやろうとする意欲とできる技能を育てることを大切にしています。
- ③人への関心、伝える気持ちの育成

今回は、事業所からいただく声として特に多い基本的生活習慣のことや、人への関心についての例を紹介します。

靴の履き替え



どんな場所でもできるよう、立位で行い、「かがむ」姿勢でかかとを入れる姿を目指しています。

着替え



下着でいる時間を短くするため、衣服の着脱は上衣から行い、上衣を脱いだら上衣を着て、下衣を脱いだら下衣を履くという手順で行っています。下衣を脱ぐ前には、ハンカチを出し、下衣を履いたらハンカチを入れることを確実にします。最後にシャツを入れて身だしなみを整えます。また、裏返しにならない脱ぎ方にも取り組んでいます。

排泄



定時排泄によりトイレでの成功を積み重ねています。成功経験を増やし、尿意を伝えてトイレに行くことへとつなげていきます。トイレットペーパーの使い方や拭き方を知るとともに、男子は立ち便器で尻を出さずに排尿したり、どちらでもできるように立ち便器と個室の両方を使用したりすることにも取り組んでいます。また、排泄後はトイレの中でシャツを入れること、ハンカチは常に持つようにし、手洗い後に必ずハンカチを出して拭くことを習慣づけたいと考えています。

食事



学校で食べることに慣れ、楽しい雰囲気での食事を大切にしています。以下のことに取り組んでいます。

- ① 食具（スプーン、箸、皿、お椀）の正しい持ち方と使い方を覚える。
- ② 椀や皿を持ち、すくったりはさんだりして食べる。皿に手を添える。
- ③ 口の中に入っているものを食べてから次のものを運ぶ。（一口量を伝え、詰め込んだり掻き込んだりしない。）
- ④ 噛み切る力をつける。

そのほか、給食袋の準備や下膳、自分のテーブルを拭くなど準備や片付けの面についても大事にしています。

遊びの指導



本校の小学部1、2年生は、「遊びの指導」を教育課程に組み込んでいます。この学習では、感触遊びや感覚遊び、体を使った遊び、簡単な約束やルールのある遊びを通して、周囲のものや人に自分から関わる力を育てることを目標として取り組んでいます。

遊びの中には、物や人との関わり、子ども同士の関係、体の動きや運動機能、認識や創造などの認知的なこと、言語やコミュニケーション、数量に関することといった発達のために必要なことが含まれています。低学年のこの時期に、その子なりに「めいっぱい遊ぶ」ことを通し、「満足感」や「充実感」を繰り返し味わうことも、成長に大きい影響があります。低学年だからこそ、楽しみながら夢中になって遊ぶ経験を積み重ねていきたいと考えます。

右の図は、職業準備性ピラミッド（R6.5月に掲載）と本校の各学部の役割を表したものです。小学部はピラミッドの基礎部分であり、短期間で身に付くものではありません。土台作りが将来の就労生活の安定に繋がることは間違いないと思います。将来、安定した職業生活を確立するために、小学部低学年からしっかりと土台作りをしていきたいです。

